

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結 核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和8年8月、2025 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は8.0と低蔓延状態を維持しているがほぼ横ばいであった。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000175095_00018.html)

神戸市の 2025 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)

2025 年の結核罹患率は神戸市では 12.6 と 2024 年の 10.1 より高く、罹患率 10 未満の低蔓延地域とはならなかった。市内でも区により罹患率の差はあり、最も罹患率が高いのは兵庫区の 25.0 で、次いで長田区 21.5、中央区 18.4 で、3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表1)

中央 3 区は外国出生者が多く居住し、人口密度が高いことは変わらないので、他の区より罹患率の高い状況は続くと考えられる。また、高齢者の結核発病を喀痰検査や胸部 X 線検査で適切に発見し、今しばらくは患者数が増加しても、検査を勧めて早期受診・早期発見に努め、感染の連鎖を断ち切りたい。

2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出があり登録された患者数、再治療を含む) 新登録結核患者数は全国では 9,899 人で前年より、152 人(1.5%)減少している。神戸市では 188 人で、前年より、37 人(約 20%)増加した。新登録結核患者の診断のきっかけは他疾患で入院中・通院中に結核が発見される場合が全体の約 40%を占め、他疾患で治療中の場合にも結核を発症する可能性があることを認識しておく必要がある。(表2)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国で 3,259 人、罹患率 2.6 で、神戸市では 68 人、罹患率は 4.5 である。2024 年に比し 20 人増加し、罹患率も 3.2 から 4.5 に増加、新登録患者に占める割合も 36.2%と増加した。感染拡大防止には、喀痰塗抹陽性になる前に患者を発見し治療を開始することが重要であるため、喀痰検査の実施を励行したい。(図1)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3～4 剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺

結核培養陽性患者は全国で 6,335 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 4,490 人、MDR は 47 人(約 1%)、うち 24 人が外国出生患者であった。神戸市では培養陽性患者 86 人、MDR は 0 人であった。

外国出生患者が増加傾向であり、感受性検査結果が早くわかるよう、耐性遺伝子検査の実施が望まれる。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図 2)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 5,677 人で 57.3%、神戸市では 122 人で 64.9%を占める。80 歳以上は全国では前年より 258 人減少して 4,037 人(40.8%)、神戸市では 10 人増加して 85 人(45.2%)であった。70 歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられ、咳・痰などの呼吸器症状より、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0～14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国 31 人、前年から 1 人の増加となった。神戸市の小児結核は 2017 年に 3 人、2018 年・2019 年には 0 人、2020 年に 2 人、2021 年に 1 人で 2022 年～2025 年は 0 人であった。このまま 0 を更新できるように、感染源となる大人の結核を早期発見・早期治療することが重要である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から 372 人増加し、2,352 人、20 代が 1,483 人となった。神戸市では 37 人、全新登録結核患者の 19.7%に増加した。20 代の新登録結核患者 33 人中 31 人が外国生まれであった。近年、神戸市内での住民登録が急増しているネパール・ミャンマーは結核罹患率が高い国で、日本語教育機関に多く在籍している。37 人の外国生まれ結核患者のうち 22 人が留学生であった。2025 年、来日前から発病していたと考えら

れる患者の接触者健診で結核患者 4 人、潜在性結核感染症 10 人を発見した事例があった。入国前結核スクリーニングが本格的に稼働し、患者数が減少することを期待する。しかし、結核は潜伏期間が長いため、入国後の健診の受診勧奨及び有症状時の受診勧奨を継続して実施していく。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態: Latent Tuberculosis Infection LTBI)治療が必要な例のみ届出る。

全国で 5,475 人、前年より 492 人減少、神戸市では 83 人で、前年より 11 人減少した。生物学的製剤などの適応疾患が増加しており、それらの使用時に LTBI 治療が必要となる人が多く、年齢も合併症の多い 60 歳以上が 44 人で 53.0%を占めている。(図 3)

2021 年 10 月 18 日の医療基準の改定により、INH, RFP2 剤で 3～4 か月という治療法が追加承認された。RFP は薬剤の相互作用が多いため、他の薬剤を服用していない若年者の LTBI 治療に使用、治療完了に導いている。

表1 罹患率(人口 10 万人あたり)

年	2023	2024	2025
神戸市	11.3	10.1	12.6
東灘	10.0	7.1	13.2
灘	5.9	5.9	8.0
中央	12.1	10.7	18.4
兵庫	19.1	20.9	25.0
北	8.3	9.3	10.3
長田	21.5	25.9	21.5
須磨	14.8	6.5	13.8
垂水	8.2	8.7	6.8
西	10.8	7.8	7.4

神戸市の 10 月 1 日推定人口で計算

表 2 新登録患者数(人)

年	2023	2024	2025
神戸市	170	151	188
東灘	21	15	28
灘	8	8	11
中央	18	16	28
兵庫	21	23	28
北	17	19	21
長田	20	24	20
須磨	23	10	21
垂水	17	18	14
西	25	18	17

図 1

新登録結核患者数(年次推移)神戸市(1996～2025 年)

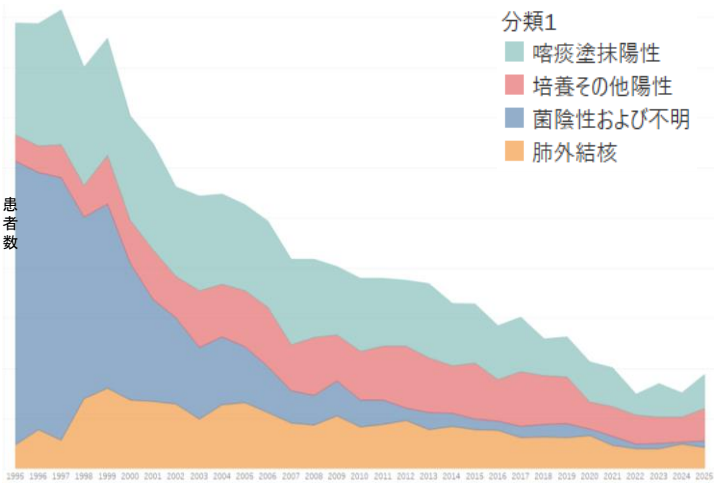


図 2

新登録患者_年齢分布(神戸市)

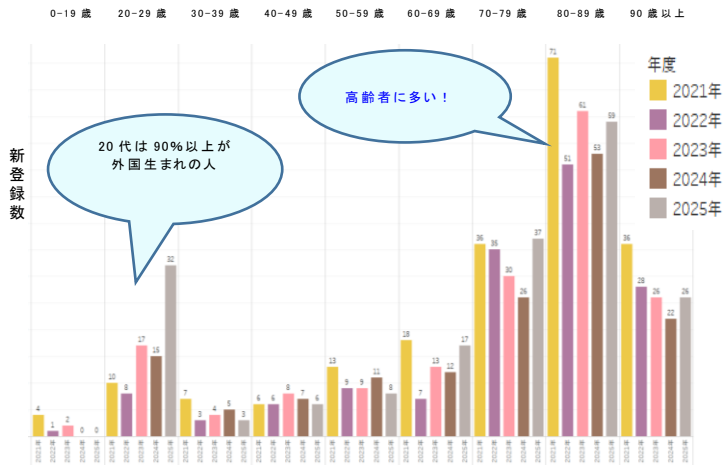


図 3

